

令和3年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和3年4月 1日
至：令和3年9月30日

令和3年11月

学校関係者評価委員会

目 次

I	学校関係者評価の概要と実施状況	
	1. 学校関係者評価の目的と基本方針	1
	2. 学校関係者評価委員名簿	2
	3. 学校関係者評価委員会の実施状況	4
	4. 令和3年度中間報告の実施と評価の仕方	5
II	学校関係者評価報告書の見方	6
III	学校関係者評価委員会 評価結果報告書	
	総評	7
	令和3年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見	
	○教育重点項目 前期実績報告	
	1. 令和3年度前期 学校の近況	8
	2. NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」	9
	3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目	11
	○総合評価	13
IV	学校関係者評価委員会議事録	16
	○全体会自由意見	19
V	付属添付資料 自己評価報告書（説明資料）	

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和3年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

添付：自己点検評価（中間報告）

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、令和2年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。また、令和3年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、令和3年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	杉本 武史	株式会社ぴえろ	人事総務部 リーダー
	井沢 祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	取締役副社長
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	新 和也	オートデスク株式会社	テリトリ営業本部 メディア&エンターテインメント テリトリマネージャー
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	森 まり子	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会委員
高校教員等	勝間田 清一		
	松下 秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	西田 政偉	株式会社ウィザス	第2教育本部 教育運営部 教務 ICT 支援室 課長代理

日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部 副部長
卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	前田 かざね		
	高野 優美		
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在校生	松井 双綺	高度情報処理科	3年生
	伊東 佳汰	ゲーム制作科	2年生
	山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科	1年生
	笹原 萌絵	アニメーション科	1年生
	岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科	1年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和3年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和3年11月29日（月） 13:30から16:00

場所：日本電子専門学校 7号館 711教室

2) 学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、対面で行うことを避け、オンライン会議システム（Zoom）を利用し実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認） 13:30～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

(4) 評価方法説明

(5) 議長（委員長）選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50～

<令和3年度 教育重点項目 前期実績報告>

1. 令和3年度前期 学校の近況

2. NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」

1) 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2) EM・IRによる組織的學生指導体制の充実

3) 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

4) 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

5) 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

(7) 全体自由意見 15:25～

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検中間報告の実施

日本電子専門学校は、第2回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和3年度中間（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は、令和3年度における「教育重点項目」3項目であった。

2) 中間報告の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

令和3年度第二回学校関係者評価委員会
評価記入シート

[アカウントを切り替える](#)

*必須

令和3年度 > 教育重点項目 > 前期実績報告

・令和3年度前期 学校の近況*

	十分	不十分
評価結果	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

コメント

回答を入力

[戻る](#) [次へ](#) [フォームをクリア](#)

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 評価結果の集計

学校関係者評価委員 24 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第二回目（11月）に実施する委員会は、「令和3年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、令和3年度日本電子専門学校第二回学校関係者評価委員会を令和3年11月30日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法をオンラインでの開催に変更し、3つの「教育重点項目」について、中間報告を校長および教育部署長より行いました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員24名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断した結果が以下の通りです。

<教育重点項目に関する中間報告>

1. 令和3年度前期 学校の近況（十分：24、不十分：0）
2. NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」（十分：24、不十分：0）
3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目（十分：24、不十分：0）

この評価結果は、日本電子専門学校の取り組みが委員に認められた証であり、多くの委員がコメントにもそのように記述しています。

また、ポリシーの公開や、EM・IRによる組織的學生指導、新設学科開発フレームを活用した調査・検討、遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用についての説明もわかりやすく、着実に実施していることも、良い評価に繋がったと言えます。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

教育重点項目

重点項目1 令和3年度前期 学校の近況

評価結果	十分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① 「日本留学AWARD2021」での大賞獲得は素晴らしい。(杉本)→十分
- ② コロナ禍の中諸々大変かと存じますが、粛々と対応されていらっしゃるようで素晴らしいと感じました。(井沢)→十分
- ③ 多方面での多彩な取り組み、そして成果を出されており素晴らしく思います。また、コロナ対策も万全でとても良いと感じています。(木下) →十分
- ④ コロナで大変な時期、様々に適切な対応をされていることが理解できました。行事においてもスポーツフェスティバルは中止されたのは当然ですが、他の行事は創意工夫で行い学生のモチベーションも上がったのではと思っています。また、平素の学習の成果を発揮する様々な大会での入賞おめでとうございます。この学校のレベルの高さが良く分かりました。(舟山) →十分
- ⑤ 選挙への投票を優先しているのは、学校の対応として素晴らしいと思いました。(新) →十分
- ⑥ 学生さんの入賞、おめでとうございます。学生さんの高い意識とチャレンジ精神の結果だと思えます。これら結果は今後への自身にもなると思えますので、少しでも多くの学生がこういうチャレンジに取り組む機会が提供されることを期待しています。(佐々木) →十分
- ⑦ 様々な行事を、工夫を凝らしながら開催、実施していることがよく分かりました。学生に対して非常に親身になって対応されていることが良く分かりました。また、コロナ禍にもかかわらず、学生の方々がコンテストで受賞するなど校外でも評価されているため、十分だと思えます。(伊藤) →十分
- ⑧ しっかりとしたコロナ対策のもと、できる限りの活動、文化祭や発表会などを行っていることを確認できた。日本留学アワードの大賞受賞6回目はこれまで積み上げてきた素晴らしい成果だと感じた。(篠原) →十分
- ⑨ コロナ禍において、短期間でさまざまなイベントの実施は素晴らしいと思いました。学校関係者、学生たちの努力の成果だと感動しました。(満岡) →十分
- ⑩ 学習環境が変化しても高いモチベーションをもって努力している学生がいらっしゃる印象に残りました。(米井) →十分
- ⑪ コロナ対策行われているようですが、コロナ発症しないよう、十分ご注意ください。(勝間田) →十分
- ⑫ 申し分のない対応だと思えます。(松下) →十分
- ⑬ 学生が学業のみならず、様々な活動に参加できる環境づくりとまた発露の場を用意していることが伝わりました。実績も対外的に非常に高い評価を得られていることが分かりました。(西田) →十分
- ⑭ コロナ対策とイベント運営、参加のバランスがよいと感じました。(谷) →十分

- ⑮ コロナに対する対応は十分に行われていると思います。大会における賞の受賞獲得に学生の一生懸命さを感じ、素晴らしい大活躍だと思います。(小澤) →十分
- ⑯ コロナ禍における「安心、安全」の保障にむけた現状の取り組みを把握するとともに、学業の質の保障としてコロナ禍の授業でも華々しい成果を上げている点で学校の実態を把握することができました。(伊東) →十分
- ⑰ コロナ禍でオンライン授業もある中、グループ内で連携を取り学生が全国を舞台に活躍し、実績を残す等大変喜ばしいです。(笹原) →十分
- ⑱ コロナ禍で、スポーツ大会は中止にせざるを得なかったとのことですが、他のイベントはオンラインを使ったり、内容を検討して実施されたとのこと。この状況が長く続いているため、オンラインでのイベントの実施に教職員も学生もお互いに慣れ、スムーズにいくようにはなっているのではないかと思います。
- できることは限られてくるものの、オンラインをうまく活用されていると思います。例えば、保護者会をVODにして1か月間見られるようにしておく…というのも、オンラインの恩恵かと考えられます。
- 今後もオンライン・ハイブリッドという状況が続いていく可能性が高いのですが、これまでの対応を見て、学生や保護者の方も安心できる環境作りができているものと思われまます。(会田) →十分

重点項目2 NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」

評価結果	充分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ディプロマサプリメントについては、学生就活時の学校成績資料にも情報が追加されると、選考する企業側としてもとても有益な情報になりそうと感じました。ドロップアウト率については、2020年度がかなり低く、2021年度で増加(元に戻った)した理由が気になりました。(井沢)→十分
- ②
- ・成果の可視化での能力レベル(間接評価)については、リスト作りが大変難しい内容と思いますが、ぜひとも評価具現化の第一歩として期待しています。
 - ・最終アウトカムズでの10年後までを追っかけるのは、先生方のご苦勞が大変かと思いますが、実現できると今後の在学中の指導にも活かせるのではと思います。
 - ・退学防止策については、アンケートは良いとして防止の具体策までわかると良いと思いました。
 - ・新規学科開発については、報告にあった通りスピード感はとても重要なことですので、今後に期待しています。蛇足ですが、現況では社会の課題解決をめざす事業が伸びていくと思われまますので、その辺りを学習できるDX的なものが望まれるのでは、と思います。(木下)→十分
- ③ 前回の課題である3つのポリシーの公開もクリアされ着実に進捗していることが分かりました。また、EM IRによる組織的學生指導、新設学科開発フレームを活用した調査・検討、遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用を分

かりやすく解説いただきありがとうございます。今後も課題解決に向け頑張ってください。(舟山)→十分

- ④ ディプロマサプリメントで達成項目を1年次と2年次に比較できるのは、生徒にとっても成長の指標となり、良い取り組みだと思いました。データベースとして溜まっていけば、最終的に卒業した生徒と比較出来たりと、今後色んな活用にも繋がると思います。(新)→十分
- ⑤ 遠隔授業の教授方法を充実するのは良いが、この機会に授業の方法について見直ししてみてもどうだろうか。IT技術は座学で独習すればいいものも多く、全員が同じ時間を使って学ぶ必要はない。eラーニング的に独習し理解度確認をして、フォローアップが必要であればフォローする。授業の時間の多くを協働作業に使うことで、コミュニケーション力など社会人基礎力の向上を図り、技術の応用によって基礎技術の定着を図ることができると考える。(渡邊)→十分
- ⑥ オンライン授業の活用が日常的となりつつあります。また、これまで実施できていたオフサイトイベントの中止はやむを得ないと思いますが、今後は授業以外でもオンラインの活用した学生の交流が図れるようなイベントや仕組み作りも重要になると思います。(佐々木)→十分
- ⑦ EM・IRに関して、アンケートなどのデータに基づき、対応され、また結果が出ている点が素晴らしいと感じます。退学まではいかないまでも、モチベーションの上がらない生徒に関して、先生方に話しかけられることで、持ち直すこともあると思います。引き続き、取り組みを続けていただきたいと思います。(伊藤)→十分
- ⑧ ディプロマポリシーに基づいた学習成果の可視化は、学生にとって今後の糧になる内容だと感じた。自分の立ち位置や成長が見られることが良い。
新設学科開発フレームや遠隔教育標準化分科会についても今後期待したい。
オンライン授業のアンケートについては興味深い。教員や学生がどう感じていて、賛否についてどう発展・解決できるのかに期待しており、データを共有してもらえると有難い。(篠原)→十分
- ⑨ 継続したポリシー設定が出来ていると感じました。(満岡)→十分
- ⑩ 各項目とも具体的な説明がありどのような活動があったか理解できましたので、「十分」と評価させていただきました。(米井)→十分
- ⑪ 学校として最新の技術を教育してゆくにはその時代に合う新設学科を開発するにはたいへんですね。授業で実習が大切な中、オンラインで実習授業をするのは大変だと思います。今後常時必要となろうと思います。よいオンライン授業を開発してノウハウを蓄積してください。(勝間田)→十分
- ⑫ アフターコロナを見据えた対策の検討素晴らしいです。(松下)→十分
- ⑬ 方針に対する各項目からのアプローチが明確に示されていました。それぞれの項目の取り組みに対して成果や課題の共有がありましたが、定量的なデータやグラフなどによる説明を加えて頂けるとより取り組みが可視化されるように感じました。(西田)→十分
- ⑭ 新設学科開発も重要ですが、既存学科の見直しについての取り組みが気になりま

した。(谷)→十分

⑮ テーマとポイントを明確にし、深く専門的に取り組んでいると感じました。(小澤)→十分

⑯ 色々な事を考えて下さりありがとうございます。計画通り進み、成果がある事を期待しております。(前田)→十分

⑰ ディプロマポリシーやEMを用いてより学生の将来を明確にすること、学生の満足度が学生生活の内容と直結しているデータをもとに学生により良い結果を提供する姿勢、取り組みをきちんと理解できました。

また、新設学科フレームや遠隔授業の質の維持、標準化などではチームを策定することでより動きやすく、成果の期待できる体制で臨むはたらきは、今後の目標実現に対する本気度、有効性が明確になり伝わりました。(伊東)→十分

⑱ EM・IRの体制はいいと思います。ただ学生自治会の運用があまり起動していない、新設学科の検討がうまく進んでないなどスムーズに進んでいない話も多くあると感じました。(笹原)→十分

⑲ 3つのポリシーを公開できているということ、さらに学修成果の可視化に向けて動いていることから、前回の報告からかなり前進していると思われます。学修成果の可視化ができれば就職の採用担当の人にとっても活用できる資料になると思います。また、1年次・2年次とグラフ化することで、何がどのくらい成長したかが一目でわかるようになるのもいいです。

学修成果の中で、知識や技能だけではなく「態度」も評価に入れるというのは興味深いです。

学生にとって、今、何がどのくらいできるのかを見ることができるとモチベーションアップにもつながると思いますが「今後、いつまでに何をして、これからどうなりたいか」という目標を立てることも大切かと思います。

キャリアセンターで実施しているアンケートは、設問数が多いのに回収率が高く、信頼ができるアンケートとなっていると感じました。その結果を踏まえて、すぐに学生さんにアプローチができ、いい方向へ誘導できているのもいいことだと思います。

遠隔授業については、教員の方々も日々、様々な工夫をされているようなので、それがすぐに、うまく共有できるようになれば、授業の質が上がるのと同時に、授業準備も効率的にできるようになり、教員の方々にとって助かるのではないかと思います。(会田)→十分

重点項目3 クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目

評価結果	十分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

① クリエイター教育面、Unityへの力の入れ具合が伝わってきました。現状だと2極化しているもう一方、UE4(アンリアルエンジン)もある程度視野に入れたほうがいいかもしれないと感じました。(井沢)→十分

- ② 取り組みについては、特に問題ないと思われます。それぞれ課題感も見えておられることから実施に向け更なる充実された取り組みを期待しています。(木下)→十分
- ③ クリエイター教育、エンジニア教育ともに課題が明確でよかったと思います。特にクリエイター教育の「学生の資格取得も大事だが、教員の資格取得でレベルを上げることも重要だ」という言葉やエンジニア教育の「仕事を持っている夜間の学生にとってベストの教育とは」という考えが素晴らしいと思いました。(舟山)→十分
- ④ 夜間部学科に対する e ラーニングの導入を進めてほしい。
Unity を推しているように聞こえたが、ゲーム系では Unreal も現場では多く利用されている。学生がゲームエンジンの特徴を理解し、開発対象によってエンジンを選択することができるようになることも先生達に期待したい。(渡邊)→十分
- ⑤ 夜間の方は就業しながらの授業参加は大変と思いますが、お互いの機会損失にならないよう、オンライン授業は週 1 だけでなくもっと活用してもよいと思いますし、どうしても参加できない方向けに、後日ビデオ授業を提供(確認テストあり)などの工夫も検討されると良いのではないかと思います。(佐々木)→十分
- ⑥ クリエイター教育:先生の質が第一となり、資格の指導もされと思いますし、先生方の努力の姿勢も学生に伝わると思います。
エンジニア教育: オンデマンドはいつでも見られるというのが良い点もありますが、モチベーションの向上と言われていた質が難しい点だと思います。チャレンジだと思いますが、よろしくお願いします。(伊藤)→十分
- ⑦ 企業・業界との意見交換会については教育の糧になると思いますので、ぜひ実施いただければと思います。12 月に SA 内で実施するプロダクションミートアップはその一環となるかと思ひます。CG, アニメ, ゲーム, インタラクティブ等の 33 社が参加します。(篠原)→十分
- ⑧ エンジニア教育の夜間部学科に関しては、教員負担が一番気になりました。負担が大きいと、授業の内容・質にも関わりますし、何よりも教員に身体的な影響がないかと心配です。交代制にするなど、負荷軽減した無理のない運営を期待します。(満岡)→十分
- ⑨ クリエイター教育、エンジニア教育、教員の負担が結構たいへんですね。その辺の内情がわかりませんでしたので説明がありよかったです。
教員の資格取得など教育の質の維持や教育の機会を多くする夜間部など大変と思いますが頑張っていきたいと思ひます。(勝間田)→十分
- ⑩ 教員の指導力の向上・見える化は喫緊の課題ですね。
変化の大きい時代ですから、いろいろな業界の人との対話力も必要ですね。(松下)→十分
- ⑪ 教える側の研鑽の場を提供できており、また学生の立場に立ち、より学びやすい方法の検討をされていることが分かりました。資格取得によるアウトプットがどのように考えているのか気になりました。また、課題検討事項としている内容について学生がどのように認知し、どのような考えやニーズを持っているのか知り

たいと思いました。(西田)→十分

- ⑫ オンデマンド授業は学生側、教員側ともに利点があり、とても良いと存じます。実現に向けて頑張ってください。(谷)→十分
- ⑬ オンライン教育はコロナ後においても大事なテーマとなると思います。(小澤)→十分
- ⑭ 即戦力的な育成をメインにしているため、いかに教員が最新情報を拾えるかの重要性や、資格取得の推奨による教員の質向上の取り組みは素晴らしいと考えます。また、夜間部における欠席率や常勤教員の負担などの問題を明確に把握しているが、教育の質を優先するあまり教員のサポートを疎かにし、離職につながるケースの対策も少々気になりました。(伊東)→十分
- ⑮ 教員の現場クリエイター、エンジニアとの意見交換の取り組み非常に良いと思います。教員も現場を経験したとはいえ10年も前のことだったりするので、コロナ禍でもあるので現場の方の今の状況など聞いて教育に活かせるので非常に良い取り組みだと思いました。(笹原)→十分
- ⑯ 貴校の分野は全般的に、機器や必要なスキルがどんどんと移り変わっていくような印象があります。教員の方々も日々、授業をしながら情報収集をされていることと想像できますが、クリエイター教育では、最新情報やスキルを得るために、教員のスキルアップを目指しているとのこと。知識や技術だけではなく、「教え方」というのも時代とともに変わっていくものだと思います。就職に直結した指導を効率的にしていく上で、教員が自ら資格取得にチャレンジしたり、企業の方から生きた情報を得ることは、非常に大切なことであると思われます。(会田)→十分

総合評価

評価結果

コメント欄

- ① 長引く新型コロナウイルス対策も十分なされていると思います。「日本留学AWARRD2021」での大賞獲得も素晴らしいと思います。(杉本)
- ② 細かいところまで丁寧に対応されている印象です。(井沢)
- ③ 全体的にかなり進んだ取り組みをされており選ばれる専門学校であることがよくわかりました。次回の結果が楽しみにしています。(木下)
- ④ 課題の捉え方も的確ですし、解決も毎回進歩というより進化していると感じています。今後もぜひ頑張ってください。(舟山)
- ⑤ 新しい動き出しもあり、さらに学校が良くなる可能性を感じました。(新)
- ⑥ 各種大会における学生さんの入賞、大変素晴らしいと思います。今後も学生さんの積極的なチャレンジを楽しみにしています。また、オンライン授業やオンラインアンケートなどオンライン環境を今後も積極的に活用することにより、授業の質の維持・向上や効率化されることを期待しています。(佐々木)
- ⑦ ご報告いただきましてありがとうございます。学生のために、非常に知恵を絞って努力されていると思います。引き続き、よろしく願いいたします。(伊藤)

- ⑧ 学校関係者評価委員会に運営・活用に大変真摯に取り組まれていると感じています。(篠原)
- ⑨ ご報告ありがとうございました。世の中の仕組みもそうですが、大きな転換期に来ていると感じています。学校運営も、対面方式の授業からの転換と価値向上が差別化要因となると思いました。Google フォームでの回答、とてもスムーズでいいと思います。今後もこちらでしていただけると助かります。(満岡)
- ⑩ この大変な時期に学校は頑張っていると思います。(勝間田)
- ⑪ ブーカの時代素晴らしい対応と思います。(松下)
- ⑫ 生徒中心として視座を置きながら、様々な角度から学校の現状を確認し、さらなる改善点に対してチャレンジする姿勢は素晴らしいと思いました。コロナ禍で得られた知見を今後、状況が変わってもさらなる教育の質向上につながれることを願っております。ありがとうございました。(西田)
- ⑬ Next10 に向けた活動、コロナ対策も十分にされていると存じます。(谷)
- ⑭ 企業、業界との意見交換会企画・運用は現場で求められる人材像、技術の再確認のみならずオンライン教育との関連についても重要だと思います。先生方に積極的に参加の機会を作っていただくとよいと思います。(小澤)
- ⑮ 現在の状況の中、色々な分野に取り組んで頂いていると思います。ありがとうございます。

オンラインに関してはそれぞれの立場で賛否ありましたが、対面時と同等の内容(気づいて貰えないから質問出来ず理解が出来なかった)等、ないように着目点を気にしながら、画面全体を見て、画面の中の生徒を見て、オンライン授業は進めて頂きたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。ありがとうございました。(前田)

- ⑯ コロナ禍で学校でのコロナワクチンの集団接種、コンテストでの活躍の場を用意してもらい大変ありがとうございました。自分からの意見としては、自宅で受講可能な実習環境がある生徒については自宅で受講してよいとなっていました、コロナが収まってきたころに実習は対面に戻すと言われて、自宅に用意した実習環境は無駄に、通学時間の短縮はなくなってしまったので、引き続き自宅で受講可能な実習に関しては継続して欲しいと思った。(松井)
- ⑰ 全体的に、コロナ禍の苦境の経験を今後の問題解決に活用しようという姿勢はとても素晴らしく思います。
ディプロマポリシーやディプロマサプリメントなどを用いることで複数の形で評価を行う、教員の知識の更新などを導入することで、学生に有益な形での解決を模索している形式であり学校の質向上を図っている点も今後、進路に悩む後輩へ推薦できるほど信頼を寄せることができました。(伊東)
- ⑱ 今回の学校評価委員会を通して日本電子での様々な取り組みを知れて大変良かったです。(笹原)
- ⑲ 留学生の進学指導をしている立場から、今年も臨機応変に入学試験に対応していただき、ありがとうございました。
指定校推薦では、N2 しかまだ取得していない学生が試験にチャレンジして、指定

校推薦が取れるように配慮してくださったり、まだ海外にいる韓国の学生に、海外での受験を実施してくださったり…。学生数が多いにもかかわらず、学生一人一人に丁寧に対応していただき、感謝しています。

またいつ入国できるかわからない状況になってきましたが、貴校を目指して日本語学習をしている学生も毎年おりますので、今後とも個別でご相談させていただくこともあるかと思えます。よろしく願いいたします。(会田)

IV 令和3年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和3年11月29日 13:30～16:00

場 所：日本電子専門学校 711 教室（オンライン）

学校関係者評価委員：

名 前	所 属（役 職）	区 分
杉本 武史	株式会社びえろ（人事総務部リーダー）	企 業
井沢 祐	株式会社スタジオフェイク （研究開発部 ディレクター）	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー（取締役副社長）	
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
新 和也	オートデスク株式会社 （テリトリー営業本部 メディア&エンターテインメント）	
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
伊藤 好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原 たかこ	CG-ARTS（教育事業部 事業部長）	
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構（理事）	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部 人材交流委員会 委員）	
森 まり子	東京商工会議所新宿支部 事務局長	
勝間田 清一		高校教員等
松下 秀房	目白研心中学校・高等学校（理事 校長）	
西田 政偉	株式会社ウィザス （第2教育本部 教育運営部 教務 ICT 支援室 課長代理）	

会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部 副部長）	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト （プロジェクトマネージャー）	卒業生
前田 かざね		保護者
小澤 博太郎	百人町西町会（会長）	地域住民
松井 双綺	高度情報処理科（3年）	在校生
伊東 佳汰	ゲーム制作科（2年）	
山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科（1年）	
笹原 萌絵	アニメーション科（1年）	
岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科（1年）	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
高橋 陽介	キャリアセンター長
大野 通江	学事部長

進行：

- | | | |
|-------|-------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 令和3年度 教育重点項目 前期実績報告 | |
| | 令和3年度前期 学校の近況 | 船山 |
| | NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた | |
| | 「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)EM・IRによる組織的學生指導体制の充実 | 高橋 |
| | (3)學生主導で社会人基礎力を養う | |
| | キャリア教育の充実 | 高橋 |
| | (4)新設学科開発フレームを活用した調査・検討 | 五十嵐 |
| | (5)遠隔授業の標準化・質保証と | |
| | 先端テクノロジーの利活用 | 大川 |
| | クリエイター教育の重点項目 | 五十嵐 |
| | エンジニア教育の重点項目 | 大川 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:25 | 7. 意見交換 | |
| 16:00 | 8. 終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

令和 3 年度中間報告の評価（十分・不十分）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業/アニメ) 株式会社ぴえろ 杉本様】

長引くコロナ対策も十分学校の方でなされていると感じました。

また、教員の資格取得も進んでいると感じました。

昨今、e-sports に対する取り組みや映像に関することは他の専門学校でもどんどん進化していくので、教員の対する資格取得の取組も素晴らしいと感じました。

【(企業/ゲーム) 株式会社スタジオフェイク 井沢様】

コロナ禍が続く中、しっかり対応されていらっしゃると感じ、素晴らしいなと思いました。

ディプロマサプリメントというものをまとめていらっしゃる聞き、可能かどうかわかりませんが、学生の就活において、学校成績の情報にこれを載せていただくと、採用を検討する身としてはありがたいと感じました。

また、ドロップアウト率が 2020 年にかなり下がったが、2021 年に戻ったというところに関して、個人的にはどうしてなのかと思いました。学校側で分析されていらっしゃるようでしたらその内容も反映いただきたいと思います。

最後に、今回見せていただいたミーティングの資料ですが、要所で挿絵を入れてくださっている印象がありましたが、入れてくださっている挿絵が、そのページで伝えたい内容と違う意味を持つものが散見され混乱することがあったので、入れる挿絵は検討していただけると幸いです。

【(企業/デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

私も実際、昨年から産学連携として臨時で授業をさせていただいているが、実際に現場を見て万全なコロナ対策なされていると感じております。

また授業においても、学生さんの社会人になるための心構えや立ち振舞、言動については特に問題なく実施されていると感じています。

一点気になったところは、ドロップアウトの報告で色々アンケートを取られて、それに該当する学生さんがいたという発表がありましたが、実際にどのようなことを担当の先生がお話をされて、防止に努められたのかという具体策のところまで聞けると、なお良かったと思いました。

新しい学科の開発のところでは、俎上に上がるものがなかなか出てこないという課題もあったという報告でしたが、今、社会の課題はたくさんありますし、電子専門学校として DX 関係の部分もなにか今後の事業に活かせるものがあると、おそらく採用を行う企業の方からは人材として、非常に求められるものになっていくと思います。

【(企業/C G・映像) オートデスク株式会社 新様】

まず一つ驚いたことが、文化祭のときに投票へ行くよう学校が指導していたことが意外でした。ただ昨今の社会でも、若い人が投票に行かないということが問題になっているので、非常に驚きましたし、自社のみんなにも言おうかなと思っています。

あとは、ディプロマサプリメントということで、自分の成長が一年次と二年次で比べられたりという分析をされ、それがデータベースとして溜まっていけば、今の卒業生の情報は取れないですが、いずれ卒業生達がどうやって活躍していったか、グラフから得意分野など色々なものが見られるようになり、既存の生徒と卒業生で様々な分析に使えるのではないかと思います。

是非一度きりではなく、今後もデータを貯めて資産にしていただければ、日本電子専門学校さんとしての強さが出てくるのではないかと思います。

【(企業/情報) 合同会社ワタナベ技研 渡邊様】

遠隔授業の教授方法を先生たちで色々共有しようという取組は、是非今後も行っていただき、よくある予備校のカリスマ先生のような良い授業をできるようになっていただけたらと期待しております。

そもそも、私がやっているテクノロジーの分野は集合教育で行う必要性があまりなく、集合教育で行うべきものとそうでないものがあると思っています。今はすべて集合教育でかつ、登校して行うことが一般的だと思いますが、これらをeラーニングに切り替えていけば、先程の夜間部の話も解決できますし、夜間部と昼間部の授業も共有していけるのではないかなと思いますので、頑張ってくださいと思います。

もう一点、学科の新設を考えたが、今年はいいものが見つからなかったという話がありましたが、今の私達の仲間内で成長している分野がVRやARやMRという分野です。ちょうどFacebook社がメタバースのような話で発表されていましたが、リアルな世界をいかにスキャンしてバーチャルの世界に組込、または実現していくかという部分が我々としてはビジネスになる分野なので、こういったところを是非取り入れていただいて実現できたらと思います。

【(企業/ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 佐々木様】

オンラインの活用というのは、進めていくべきものだと思いますので、これまでオフサイトでできていたイベントや交流なども、オフサイトだけではなくオンラインを活用して交流できると良いのではないかなと思います。

授業については、先生方もオンライン授業に慣れて色々と活用できているかと思いますが、学生と直接会うことの重要性をものすごく痛感することもあります。

ただ、それだけではできないこともあるので、是非オンラインで学生の交流が図れるような仕組みも取り入れていただくといいのではと思います。最近ですと例えばZOOMを使って、学生同士で謎解きや勉強会など、交流の機会も色々作れると思いますのでこういったツールを活用するのも良いのではないかなと思います。

また、先程も話にあった、夜間の学生が就業しながら学校に通うことはかなり大変

だと思しますので、週1回のオンライン授業などではなく、積極的にツールを活用して、ビデオなどをオンデマンドで提供するなどといったことも、今後積極的に取り込んでいただくとより良い機会創出になると思います。

【(企業/AI・モバイル) JTP株式会社 伊藤様】

様々な行事を学生の立場になって、工夫を凝らしながら一つでも多くイベントをおこなっており、学生も感謝されているのではないかと思います。

全体的に、『コロナ禍でできないこと』ではなく、『何ができるのか』といったところにフォーカスを当てている点も非常にポジティブな感覚を得ました。

EM・IRのところは弊社でもクラウドやAIなどのサービスをしており、教育機関のお客様からAIを活用して退学者を減らしたいなどのご相談を受けたことがあります。先生方の集めたデータや、ある意味直感的な部分がまだまだ重要になってくるのかなと思います。

データに基づく部分もあるが、最終的には先生方の感じとった部分なのかなと思っています。数字としては、退学者のうち、40%防げたとおっしゃっていたが、恐らく退学に至らずに単にモチベーションが落ちてしまっている学生に関しても、先生から話しかけられたり、心配されることで復帰する方も出てくると思いますので、コミュニケーションの入り口として良い切り口だと私は思っています。

最後に、遠隔授業の標準化について、遠隔授業は先生方が各々手探りで行うと質がバラける傾向にあるので、標準化を行うのはとても良いと思います。

ただよく起こることとして、ナレッジベースは運用が難しく、誰が管理、メンテナンスして常に更新していくのかを決めることが重要です。

弊社でも技術のナレッジベースがあるが、だれかが更新しなくなりユーザーが役に立たないと判断するとその瞬間に利用されなくなるので、専任を立てて更新をしています。

大変な面もあるが、非常に価値のあるものではあると思うので、頑張ってくださいねと思います。

【(職能団体/CG・映像) CG-ARTS 篠原様】

大変真摯に取り組まれていると感じています。

初めの方に発表のあった日本留学アワード6回目の大賞受賞についても、すごく成果を出されていると思いました。

そして、皆さんが仰っていたディプロマポリシーに基づいた学習成果の可視化は学生さんの糧になる事だと思っています。自分の立ち位置を知ったり、成長が見えることは大切だと感じました。同じように取り組んでいる学校はあまり見られないと思いますので、先導していただければと思います。

また、オンライン授業についてのアンケートを取られているとのことで、教員の方、学生の方がどう感じているのか賛否あるかと思っています。

挙げた課題の解決に取り組まれていると思うので、そのようなデータも共有していただければ、教育機関の内ですごく役立つものになると感じました。

企業、業界との意見交換会を一緒にやらせていただいた部分がありますが、ぜひ、実現していただきたいと思うところと、私どものほうでも12月のSIGGRAPHAsiaの中で、プロダクションとのミートアップを企画しており、今回はCG・アニメ・ゲーム・インタラクティブ等の企業が33社参加いただけることになりました。

そういった場も活用いただき、先生と企業の交流を私どものほうでも協力できればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【(職能団体/情報) 一般社団法人 IT 職業能力支援機構 満岡様】

エンジニア教育の夜間学科についてですが、やはり教員の方の負担がすごく心配になりました。

今の日本電子専門学校さんの参加状況を見てみると、おそらく学校に行って参加されていると思います。なので、例えば教員の方も自宅から授業が行えるようにすると、少なくとも通勤の時間がなくなりますし、あとは交代制にするなど、負担を軽減しないと倒れてしまうと思います。貴校がブラック企業だとは思いませんが、心配になりました。

また、効率化と言う意味で今回、初めて Google フォームを採用されたかと思いますが、便利なので今後も続けていただきたいと思いました。

【(職能団体/電子) 一般社団法人組込みシステム技術協会 米井様】

校長先生から報告いただいた中に、多くの学生がコンテスト等で活躍されているという話があって非常に印象に残りました。

今、オンライン授業でモチベーションの維持が難しいという話をよく聞きますが、こういう状況下でも良い結果が出ているのは、先生方の努力の結果が現れているのかなと思いました。是非今後も継続していただけたらと思います。

【(職能団体) 東京商工会議所新宿支部 森様】

長時間でしたが、とても興味深く話をお伺いすることができ、とても良かったと思っております。

特にコロナ禍で制約の大きい中で、大学等が色々な努力をして授業を展開していることを詳しく聞かせていただき、とても感動しました。ありがとうございました。

夜間学科の再構築について、本当に大変だろうと思いますが、学ぶ機会を確保していただけるのは非常に貴重だと思っております。貴校の取組みを応援しておりますし、頑張ってくださいと思います。

【(高校教員等) 勝間田様】

コロナについての説明がありましたが、他の学校や大学の場合ではコロナでアルバイトができなくなったり、家の状況で経済的に続けられなくなるといった話を結構聞いています。先程の説明では、今年度はこのようなことが例年より少なかったとのこと、良かったと思いました。

また、オンライン授業についてですが、実習の場合はどうなのかなと少し疑問に感

じました。職業実践専門課程の学校においては、実習を行うことは重要だと思います。

実習をオンラインで行う際のノウハウなど、これから蓄積していくというお話の通り、オンラインはこれからさらに多くなっていくと思われます。

ペーパー上のことはかんたんにオンラインでできますが、実習をオンラインでも実施ができるように工夫やノウハウを蓄積していくと、今後役に立つと思います。

コロナが少し落ち着いたという風潮ですが、オンライン授業はコロナに関係なくこれからもずっと普及していくと思いますので、良い授業ができるようオンラインのノウハウを蓄積していただくと良いと思いました。

【(高校教員等) 目白研心中学校高等学校 松下様】

私は中高の現場におりますので、実業界の方というよりかは中高の教育関係の立場で話しますが、オンライン授業やハイブリッド型の授業と、本当に努力をして対応していると感じました。

ただ、オンライン型の授業は、学生がどの程度理解しているかという確認が、対面より難しいといった意見が中等教育では挙がっております。なので、おそらく高等教育の中でも同様に理解度の確認が難しいかと思います。

また、中等教育においては、現在では殆どが対面授業になっておりますが、大学等では現在もオンラインが主流かと思います。

そのため、各専門知識の習得はオンラインでもかなりの部分が可能だと思いますが、大学教育では人間力の育成という側面もありますので、日本の大学だけではなく世界中共通して人間力の育成が問題になっているかと思います。こういった部分にも関心が必要なのではないかと考えております。

また、座学で習得できる知識と実験実習を伴わないと正確に身につかない知識がある分野もありますので、それらに対する工夫が今後とも必要だと思います。

【(高校教員等) 株式会社ウィザス 西田様】

コロナ禍でも積極的にチャレンジされ、安心安全の学びの場と活躍の場、研鑽の場をバランスよく用意されているなど感じました。

弊社でも通信制高校と通信制大学を運営する中で、オンラインを中心とした中でのデータ収集とデータ分析、またはそれに伴う教授法や直接かかわるうえでの支援法を現在模索しております。そういったことに関しても、今後共有していければ良いと思いました。

【(卒業生) 株式会社アプリケーションプロダクト 谷様】

夜間部の対応で、オンデマンド形式の授業を検討されているとのことですが、これは学生の方だけでなく、教員の方にもメリットがあると感じました。

現状、教員の方は残業を前提としたスケジュールになり大変かと思いますが、時間的な余裕が出てくると、Next10に関する活動や開発フレームに則った新規の学科の検討など、いろいろなことに能力が発揮されると感じました。

【(地域) 小澤様】

冒頭、学校の近況の中でコロナのお話でしたが、対策が充分に行われているという印象を受けました。

次に学生の活躍のことですが、学生が一生懸命取組まれた結果、大会で賞を受賞され素晴らしい大活躍だと感じました。これはもちろん学生だけでとれるものではなく、先生方の努力やサポートが行き届いている証拠だと思います。

ますます、日本電子専門学校が活躍していただくことを深く望んでおります。

【(保護者) 前田様】

娘も今年一年生で入学し、入学の時からコロナで、恐らくこれからもコロナは続くと思います。

現在はオンライン授業と、登校で交互に通学している状況で、やはり本来は対面授業で分からないところはすぐに聞ける状況にあったほうが良かったのかと思いますが、この状況ですので致し方ないのかなと思っております。

娘も未経験の分野で悪戦苦闘していると思いますが、親としては、専門学校というところに入ったのでぜひそれに見合った資格をとって卒業してもらいたいという気持ちがあります。

色々と考えていただいておりますが、今後ともよろしく願いいたします。

【(在校生) 松井様】

学校の新型コロナウイルス対策、またコンテストでの活躍の場の提供、コンテストの結果等を評価してくださり、ありがとうございます。

私からの意見ですが、先程からオンライン授業を取り入れたハイブリッド型授業がすごく評価されていますが、実際、現状というと私の学科では、卒業制作などや学校で実習をする必要がある授業は原則学校に来て作業ということになっていますが、コロナが流行した際は、各自自宅のパソコンで開発環境を構築してオンラインで作業ができるなら自宅でも良いということになりました。

そのため、私も自宅のパソコンに開発環境を入れ、学科では特に教えられませんでした。GitHub等を勉強してチームメンバーとソース管理等を行い、全てリモートで作業できるようにし、週4日登校するところを週2日登校で済むようにしました。

しかし、最近、新規感染者数も1桁になり、学校でのワクチンの集団摂取により、全員ワクチンを2回摂取したところで、全て対面に戻るようになってしまいました。オンライン授業ができる環境があるにもかかわらず、リスクが減少したからといって全て戻ってしまうのはいかななものかと思いました。

私は学校の通学まで1時間半かかるので拘束される時間が長く、往復で3時間も拘束されることもあり、すこし残念だなと思いました。

よくネットニュースなどで、コロナが落ち着いたので来週から会社に来るよう辞令がでた話を見るので、似たようなことが起こっており、検討していただけると幸いです。折角、学校の授業でリモート接続等を習い、それを活かして構築したオンライン環境が使えなくなってしまうのは残念だと思います。

【(在校生) 伊東様】

オンライン授業の評価について学校がアンケートを取り、適切に判断しているという点や、学生の学習の質や教師の授業の質を向上していく取り組みを行っている点に関しては、在校生としても、学校に信頼できるような報告等をしていただけてよかったなと思っています。

また、私が勉強をしていて少し気になったことを挙げさせていただくと、私はゲーム制作科ですが、クラス内でチーム制作をする際に、積極的に動き、どんどん実力が伸びていく学生と、ボイスチャットを行うときにずっとミュートにし、ただ意見を聞くことしかしない学生とでは、同じ授業料を払っていても知識の差が顕著に広がっていると感じました。

そういった学生の能力の差を是正していくことについて、教員の方に何かしらの取り組みやチェックをしていただけると、学校全体の質、生徒の質の向上に繋がると思うので、そこに関して取り組んでいただきたいと考えております。

【(在校生) 山崎様】

今回、学習成果の再設定プロジェクトがとても良いと感じました。

1年生から2年生に上がる際にも確認できるようになると、いつもいただく『秀』『優』『良』『不可』の成績表に加えて、自分がどれくらいできるようになったかということがわかると思います。

そうすると、成績表に対して、できなかったことがあるから成績が下がってしまったという捉え方ではなく、入学時と比較してこれが伸びたといった、成績をポジティブに捉えられるようになると思うので、この取り組みはとても良いと思いました。

【(在校生) 笹原様】

学校関係者評価委員会を通して、様々な取り組みをしていることが知れ、とても良かったです。

また、学校全体としてのコロナ対策、教室の消毒やオンライン授業の取り組みはとても良いと思っているのですが、私自身、濃厚接触者になったことがあり、2週間学校を休むことになりましたが、その分の保証などはなかった所以对策だけではなく、なった人への保証の充実に関しても取り組んでほしいと思いました。

【(在校生) 岡本様】

私自身、オンライン授業をしていて気になった点が一つあります。

チャットで先生に質問をした際に、先生に気づいてもらえないことが多々あり、そこが少し引っかかりました。

ハイブリッドで授業を行うのはすごく良いと思いましたが、質問がしたい学生に気づいていただけないと、今後不安が残ると思いました。

【(企業/電気) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

今日ご参加いただいている学生さんも含め、俗に言われる Z 世代という方、我々の業界も含め、マーケティングから何かだと、十年で随分と変わってしまうと言われていますが、やはり Z 世代の皆様は、生まれたときからデジタルネイティブであり、SNS ネイティブ、スマホネイティブです。

そのため、今日の遠隔の授業などに対しての意見も、実際、SNS で 24 時間人と繋がれる状態や、調べようと思えば検索エンジンでいくらでも調べられるという中で、もったこうしたほうが良いと思うという素直な意見がとても出ているなと思います。

私ども同じ世代から考えると、日本電子専門学校様が行っていることというのは、この新しい変化に対して、進捗でも進歩でもなく、進化しているなと私は会のたびに率直に思っています。ぜひ、学生のために引き続き頑張っていただければと思っています。